

シラバス

事業者名 福島県立ふたば未来学園高等学校

科目名	1. 職務の理解				
指導目標	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組むことができる。				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 多様なサービスの理解	2	2			○介護保険サービス（施設）
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	2	2			○施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容、○施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）、○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
合計	4	4			

科目名	2. 介護における尊厳の保持・自立支援				
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。				
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 人権と尊厳を支える介護	1	1			(1) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援
(2) 自立に向けた介護	2	2			(1) 自立支援 ○自立・自律支援 ○残存能力の活用 ○動機と欲求 ○意欲を高める支援 ○個性／個別ケア、○重度化防止 (2) 介護予防 ○介護予防の考え方
合計	3	3			

科目名	3. 介護の基本				
指導目標	介護職に求められる専門性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添削課題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1	1			(1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担
(2) 介護職の職業倫理	<免除>				<免除>
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	0.5	0.5			(1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有
(4) 介護職の安全	0.5	0.5			介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策
合計	2	2			

科目名	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携				
指導目標	介護保険制度の適正な運営について、公的機関が指定基準やサービスの質の管理にどのように関わっているのかを理解している。医療保険制度、年金保険制度の概要のポイントを列挙できる。医療処置について知り、介護職としての役割や医療職との連携について理解している。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護保険制度	4	4			(1) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割、○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定
(2) 医療との連携とリハビリテーション	2	2			○医行為と介護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念
(3) 障がい者自立支援制度及びその他の制度	<免除>				<免除>
合計	6	6			

科目名	5. 介護におけるコミュニケーション				
指導目標					
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 介護におけるコミュニケーション	<免除>				<免除>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	<免除>				<免除>
合計	0				

科目名	6. 老化の理解				
指導目標					
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	<免除>				<免除>
(2) 高齢者と健康	<免除>				<免除>
合計	0				

科目名	7. 認知症の理解				
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 認知症を取り巻く状況	<免除>				<免除>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	<免除>				<免除>
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常	3				(1) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通じたコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	<免除>				<免除>
合計	3				

科目名	8. 障がいの理解				
指導目標					
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 障がいの基礎的理解	<免除>				<免除>
(2) 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かわり支援の理解	<免除>				<免除>
(3) 家族の心理、かわり支援の理解	<免除>				<免除>
合計					

科目名	9. こころとからだのしくみと生活支援技術				
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
1 基本知識の学習 (1) 介護の基本的な考え方	2	2			○理論に基づく介護（ＩＣＦの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、○法的根拠に基づく介護
(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	1	1			○学習と記憶の基礎知識、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	1	1			○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(4) 生活と家事	3	3			家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観
(5) 快適な居住環境整備と介護	3	3			快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6			整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、○洗面の意義・効果
(7) 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3			○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介護（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防

(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	3	3			○食事に関する福祉用具の活用と介助方法
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6			入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6			排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、○排泄障がい日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6			睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防
(12) 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3	3			終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援
(13) 介護課程の基礎的理解	4	4			○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ
(14) 総合生活支援技術演習	4	4			（事例による展開） 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する。）、○事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施
合計	51	51			

科目名	10. 振り返り				
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。				
項目名	時間数	通 学 時 間 数	通 信 時 間 数	添 削 課 題	講義内容・演習の実施方法等
(1) 振り返り	1	1			○研修を通して学んだこと、○今後継続して学 ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点（利用者の 状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・ 社会面を総合的に理解するための知識の重要 性、チームアプローチの重要性等）
(2) 就業への備えと 研修修了後における継 続的な研修	1	1			○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後におけ る継続的な研修について、具体的にイメージで きるような事業所等における実例（Off-J T、OJT）を紹介
合計	2	2			